

# 第 43 回人と情報システムの相互作用に関する国際会議 開催結果報告

## 1 開催概要

- (1) 会議名 : (和文) 第 43 回人と情報システムの相互作用に関する国際会議  
(英文) 43rd ACM CHI Conference on Human Factors in Computing Systems  
(CHI 2025)
- (2) 報告者 : 第 43 回人と情報システムの相互作用に関する国際会議組織委員会委員長  
山下 直美
- (3) 主催 : 計算機協会情報と人の相互作用に関する分科会、日本学術会議
- (4) 開催期間 : 2025 年 4 月 26 日 (土) ~ 5 月 1 日 (木)
- (5) 開催場所 : パシフィコ横浜 (神奈川県横浜市)
- (6) 参加状況 : 71 か国・地域 5,445 人 (国外 4,531 人、国内 914 人)  
(オンライン開催 有、オンライン参加者数 500 人)

## 2 会議結果概要

- (1) 会議の背景、日本開催の経緯 :

ACM CHI Conference on Human Factors in Computing Systems (CHI) は、ヒューマン・コンピュータ・インタラクション (HCI) 分野において世界最大規模かつ最も権威ある国際会議であり、1982 年以来、毎年開催されている。2021 年に予定されていた横浜での開催は、新型コロナウイルス感染症の影響によりフルオンラインとなったが、5,000 人超が参加し、成功裏に実施された。その結果、日本での対面開催への期待が一層高まり、2025 年にパシフィコ横浜でハイブリッド形式による開催が実現した。我が国は、HCI 研究において「ものづくり」に強みを持つ一方、心理学や社会科学の視点が不足していると指摘されており、今回の日本開催は、国際交流を通じて研究の幅を広げる絶好の機会となった。
- (2) 会議開催の意義・成果 :

本会議は、AI や生成 AI の社会的影響を含む最先端の研究成果を共有し、産学官の専門家が一堂に会して議論する貴重な場となった。国内から 914 名を含む 71 か国・地域から計 5,445 名が参加し、学生や若手研究者にとっては国際的ネットワークを構築する絶好の機会となった。これまで北米からの参加者が最多であったが、今回は初めてアジア・オセアニアからの参加がそれを上回り、この地域における本分野の急速な成長と高い関心を示す結果となった。特に、日本学術会議との共同主催により、日本の研究コミュニティの存在感を国際的に強く印象づけることができた。
- (3) 当会議における主な議題 (テーマ) :

メインテーマは「IkiCHI」とされ、学際的・多様性を重視した議論が展開された。主な議題は以下の通り :

  - インタラクション技術とデザイン
  - 人間拡張技術、ユーザエクスペリエンスとユーザビリティ
  - AI と機械学習を用いたインタラクション
  - アクセシビリティと高齢化社会

- プライバシーとセキュリティ
  - 持続可能性と社会的公平性
- (4) 当会議の主な成果、日本が果たした役割：  
 査読を経た 1,200 件以上の論文発表をはじめ、デモ展示、学生コンペティション、市民公開講座など多彩なプログラムが実施された。日本からも多くの研究者・学生が発表を行い、若手研究者の国際舞台での経験蓄積に大きく寄与した。さらに、日本から約 30 名の委員が運営委員会に参画し、アクセシビリティ対応やハイブリッド形式運営において主導的役割を果たした。
- (5) 次回会議への動き：  
 次回の CHI2026 は、2026 年 4 月 13 日～17 日、スペイン・バルセロナ (Centre de Convencions Internacional de Barcelona) にて開催予定である。プログラム構成や投稿種別の見直しなど、参加者体験の効率化を図る新たな試みが進められている。CHI2025 で議論された生成 AI の社会的影響、持続可能性、包摂性などのテーマは、引き続き主要な研究課題として国際的に注目され、CHI2026 においてもさらに深化した議論が展開される見込みである。
- (6) 当会議開催中の模様：  
 4 月 26 日・27 日にワークショップと市民公開講座を実施し、28 日に開会式と基調講演を行った。パラレルセッション、パネル、ポスター、デモ展示などが連日開催され、ウェルカムレセプション、総会、受賞講演、閉会式を含む充実した 6 日間であった。ハイブリッド形式により 500 名がオンライン参加し、遠隔地からも活発な議論が展開された。
- (7) その他特筆すべき事項：  
 今回の日本開催にあたり、SIGCHI Japan Chapter を中心とした広報活動や「Japan Night」の開催など、日本の研究者・学生と海外参加者の交流を促進する工夫が行われた。また、国内外を含む多くの企業スポンサーの支援を得て学生ボランティア制度を充実させ、次世代研究者の育成に大きく貢献した。

### 3 市民公開講座結果概要

- (1) 開催日時：2025 年 4 月 26 日 (土)
- (2) 開催場所：パシフィコ横浜ノース G401
- (3) 主なテーマ、サブテーマ：「触れる未来、創る HCI の世界」
- (4) 参加者数、参加者の構成：160 名
- (5) 開催の意義：  
 最先端の HCI 研究を一般市民に広く紹介し、社会における AI 技術の意義や課題を共に考える場となった。
- (6) 社会に対する還元効果とその成果：  
 参加者からは「AI 技術を社会に活かすための視点が得られた」「研究者と直接対話できた」との声が寄せられ、社会的関心の高まりに応える場となった。

### 4 日本学術会議との共同主催の意義・成果

日本学術会議と共同主催したことで、CHI 2025 は単なる国際学会にとどまらず、日本の学術界全体を代表する催しとして位置づけられた。特に、日本学術会議の関与を通じて「日本一丸となって国際会議を支える」という姿勢が国内外に示され、開催国としての強い意気込みを伝えることが

できた。これにより、日本発の研究課題（人間中心の信頼できるAI、社会的公平性、包摂性など）を国際議論に反映できただけでなく、学术界全体の結束を背景として、日本の研究コミュニティの存在感を一層高める成果を得ることができた。



開会式にて主催者挨拶（日本学術会議 日比谷副会長）



開会式の様子